

原油価格が約3年ぶりの高値に

米シェールオイル増産の可能性等を考えると上値は限定的か

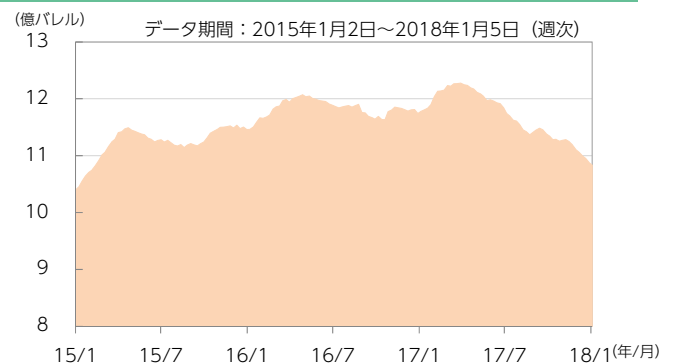
- ▶ 原油（WT I 先物）価格が約3年ぶりの水準まで上昇。世界的な景気拡大でエネルギー需要が増えるとの観測やイランの政情不安等が背景か。
- ▶ 価格上昇に伴う米シェールオイルの増産等を考慮すると上値は限定的か。投機筋の持ち高調整の動き等により、今後原油価格の値動きが荒くなる可能性も。

- 1月10日、原油（WT I 先物）価格が約3年ぶりの水準となる1バレル63ドル台に乗せました。昨年末からの上昇率は約5%、2016年末からは約2割に達しています（図表1）。その要因としては、①OPEC（石油輸出国機構）とロシア等非加盟国が昨年11月に2018年末までの減産延長で合意し、需給の引き締まりが予想されていたこと、②米税制改革法案（減税及び雇用法）の成立等を受けて景気拡大スピードが世界的に速まり、エネルギー需要が増すとの見方が強まったこと、③OPEC内原油産出量3番目（2017年第3四半期）のイランの政情が反政府デモの拡大等により不安定となっていたこと、④昨年8月にテキサス州南部を襲ったハリケーン「ハービー」等の被害に対応するために米政府が戦略備蓄を市場に放出し、米原油在庫（戦略備蓄含む）が約3年ぶりの水準まで減少していること（図表2）等が挙げられます。
- 米国リグ（石油掘削装置）の稼働数は昨年夏場あたりから横ばい状態となっています（図表3）が、今後原油価格の上昇で稼働数が増え、米シェールオイルの増産が始まる可能性があります。1月9日、米エネルギー情報局（EIA）は同増産見通し等により、米国の産油量が過去最高水準である日量1,000万バレルに達する時期を今年第一四半期に前倒しました。イランの反政府デモは鎮静化に向っているようです。今後需給が緩む可能性等を考えると、原油価格の上値は限られるものと思われます。米商品先物取引委員会（CFTC）によると、1月2日時点の投機筋（同統計におけるNon-Commercial部門）のWT I 先物の買い持ち高（買い残高－売り残高）は、昨年夏場頃に比べて約8割増加し、過去最高水準となっています（図表4）。投機筋の持ち高調整の動き等により、今後原油価格の値動きが荒くなることも考えられます。

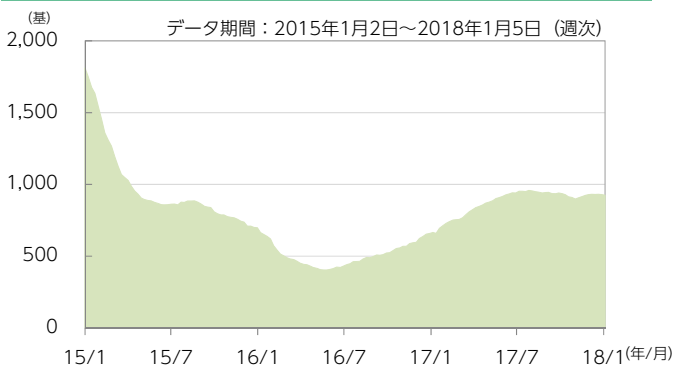
図表1：原油価格（WT I 先物価格）推移



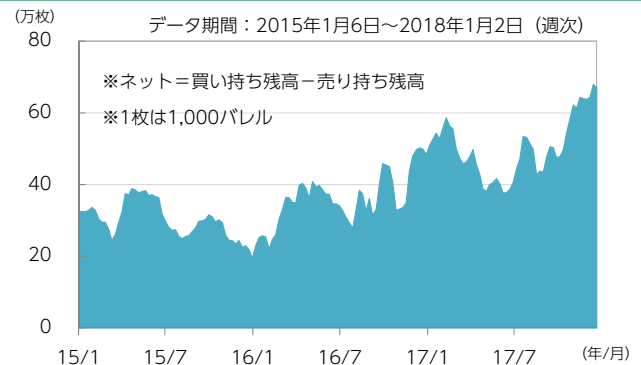
図表2：米原油在庫（戦略備蓄含む）



図表3：米リグ稼働数



図表4：WT I 先物の投機筋買い持ち高（ネット）



出所）図表1～3はブルームバーグ、図表4はCFTCデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会